

プレミアリーグとメキシカンリーグの為替ヘッジ

外資系の銀行で働いていたとき社内の外国人から受けた質問で最も多かったのは彼らの給料の為替ヘッジだ。人によって給料はドル、円、ポンドなど様々であったが、主たる支払い通貨（ベースカレンシー）と一致している場合はいいが、異なる場合は為替レート如何で実質的な給料が目減りする。そこで中には自分の仕事以上に為替レートのヘッジに熱心な者もいた。

彼らの給料も安くはないが、世界の一流のスポーツ選手となれば桁違いの給料になり為替ヘッジ次第で収入は大きく変動する。外国人サッカー選手が全体の7割を占める英国のプレミアリーグともなれば、為替ヘッジは大きなビジネスだ。

そうしたビジネスを扱う業者の取り扱い量は、BREXITの決定以来50%近く増えたと言う。もちろんほとんどポンドの下落リスクをヘッジする取引だ。数%の手数料で数か月間の為替レートを保証するようだが、これは先物為替か通貨オプションの購入によってヘッジをする。具体的にはポンドの先物為替を売るか、ポンドのプットオプション（ポンドを売る権利）を買うことになる。

現在日本人では岡崎選手、吉田選手、武藤選手がプレミアリーグに所属しているが、彼らもポンド円の為替ヘッジをしているに違いない。

本田選手はつい最近までメキシコのリーグでプレイしていた。もしそのままメキシコリーグで続けていたら、メキシコペソの為替ヘッジには頭を悩ませていたに違いない。もっとも彼は所属チームから優遇されていたので給料は米ドル建ての可能性もある。その場合はむしろ有利になったはずだ。

メキシコペソはNAFTA(北米自由貿易協定)との関連が強かった。NAFTA見直しあるいは廃棄を掲げてきたトランプ大統領のもとで、交渉の進展具合でペソが変動してきた。ドルペソはトランプが大統領に当選以降、1ドル17ペソ台から22ペソ台で推移してきた。今回米国とメキシコの間で貿易協定の合意が成立したが、これまでの流れから見てドル安ペソ高が期待されたが、18台の半ば水準から19台へと逆にドル高ペソ安に動いた。

これは貿易協定がメキシコにとって貿易黒字や資本流入を増加させるものではない、貿易協定後はメキシコの次期左翼政権の政策に焦点が移る、カナダとの交渉は容易ではなくNAFTA見直しはなお紆余曲折がある、ことなどが背景にある。

貿易協定の合意でペソが浮上できないとすると当面下値を考えざるを得ない。メキシカンリーグの外国人選手はプレミアリーグの外国人選手同様、為替ヘッジがますます避けられなくなる。